

岡田学講座テキスト

岡田の歴史

平成29年3月

岡田学講座テキスト編集委員会

岡田の歴史（概要）

岡田地区(以下、岡田という。)では、弥生時代の土器の破片や木棺墓などが発見されている一方、縄文時代以前の遺跡や遺物はまだ発見されていません。このため、私たちの祖先は、弥生時代にこの地に定住を始めたのではないかといわれております。

また、北山の万塚、打越の平石古墳群、滝ノ鼻古墳群など岡田のあちこちにある古墳のなかには石棺・須恵器・副葬品などが発掘されたものがあり、いわゆる古墳時代には、相当多くの勢力者がこの地にいたことが推定されています。

奈良時代になり、讃岐国は11郡と90郷に分けられます。そして、この頃の岡田は上法軍寺・下法軍寺とともに鵜足郡井上郷に属していました。

室町時代の讃岐は、およそ150年の間、細川氏が支配しました。なかでも細川頼之は三代将軍足利義満の管領として幕政にあたり、のちに宇多津に住んだといわれています。

応安元年(1368)、三野郡莊内宮御崎の在地領主であった海崎元高は、西長尾城に入り長尾大隅守元高を名乗ります。細川頼之に従って白峰合戦を戦いその軍功によって岡田、栗隈(栗熊の旧名)、長尾、炭所に所領を受けたと伝えられています。

安土桃山時代になり、長尾大隅守は土佐の長宗我部元親の侵攻に合い、天正7年(1579)ついに降伏します。そして、間もなく、この元親も豊臣秀吉に攻められ降伏します。

なお、室町時代後半から安土桃山時代の初めのいわゆる戦国期の岡田は、鵜足郡に属し、岡田里(または岡田郷)と呼ばれていました。

その後、岡田は、天正15年(1587)に生駒氏領となり、江戸時代初めの寛永19年(1642)からは高松藩領となりました。

江戸時代、幕藩体制が安定してから、幕府や各藩は農業の生産を高めるため、新

田の開発やため池の築造ちくぞうに力を入れるようになりました。その頃の岡田の土地は、高台で水利の便が悪く、江戸の初めまで周囲の村から取り残された一面の畑田はたけだでした。それが寛永10年(1633)鵜足郡の大庄屋岡田久次郎おおじょうやおおだきゅうじろうによって亀越池かめごしいけが築造されたのを契機に、盛んに新田が開拓されるようになったといわれています。

その後も寛文12年(1672)には小津守池こづもりいけが築造され、文政12年(1829)には鵜足郡の大庄屋木村甚三郎きむらじんざぶろうによって打越下池うちこししたいけが築造されるなど、水を確保する努力が続けられました。

また、長く岡田郷おかだのさとと呼ばれていた岡田は、17世紀の中頃に岡田上村かみむら、岡田下村しもむら、岡田東村ひがしむら、岡田西村にしむらの4か村ぶんそんに分村しています。

江戸時代の後期以降、岡田の各村では砂糖生産が行われ領内に出荷するとともに、岡田西村では甘蔗かんしょ(サトウキビの別名)や綿わたなど比較的旱害かんがいに強いものが盛んに栽培されていました。しかし、これらいずれも明治30年前後から安い輸入品の急増によって畑から姿を消していきます。

明治4年(1871)、廃藩置県はいはんちけんにより讃岐は高松県(岡田は高松県に所属)と丸亀県になりました。その後、徳島や愛媛と合併や分離を繰り返し、そのつど名称も変わりましたが、明治21年(1888)香川県になり、いまに至っています。

明治23年(1890)、上村、下村、東村、西村の4か村が合併し、岡田村(香川県鵜足郡岡田村)が誕生しています。そして、同32年(1899)の郡制施行ぐんせいしこうにより鵜足郡うたぐん、阿野郡あやぐんの区域をもって綾歌郡あやうたぐんが発足し、岡田村は綾歌郡岡田村となりました。

一方、農業面では、明治の後半頃からは米作、麦作などに対する技術指導が重点的に行われ、農産物の改良増産が進みました。また、大正期にかけて、農家の副業として麦稈真田ばっかんさなだの生産が盛んに行われました。

大正期から昭和期にかけて、稲わらを利用した「かます」の生産も盛んにおこなわれました。

また、昭和2年(1927)には、琴電の高松～琴平間が開通し、岡田駅が設置されています。

戦後の昭和は、食料難や物資の極端な不足と高いインフレ、農地改革をはじめ様々な民主化施策の実施、復興から高度経済成長、オイルショック、そして安定成長と、目まぐるしく変化する時代でした。

昭和 22 年(1947)岡田中学校が新設されます。同 33 年(1958)には岡田小学校の在籍者数が過去最高の 809 名になり、鉄筋3 階建新校舎も完成しています。同 34 年(1959)、いわゆる昭和の大合併で岡田村は久万玉村くまたまむらと合併して綾歌町岡田になりました。同 45 年(1970)には金毘羅街道こんびらが国道 32 号に、同 57 年(1982)には、県道坂出貞光線さかいでさだみつせんが国道 438 号に昇格しています。

また、昭和 47 年(1972)には、岡田おどりが綾歌町の民俗文化財(無形)に指定されています。

平成 11 年(1999)、打越地区に新葬斎場桜谷聖苑そうさいじょうきくらだにせいえんが完成し、同 13 年(2001)には町内循環じゅんかんバス「お出かけバス」も運行を始めました。しかし、全国的に市町村合併(平成の大合併)が進むなかで、同 17 年(2005)綾歌町も丸亀市、飯山町と合併し、綾歌町 46 年の幕を閉じるとともに、新丸亀市となりました。

その後、平成 18 年(2006)の新岡田コミュニティセンターのオープン、同 20 年(2008)の国道 32 号綾歌バイパス全線開通、同 25 年(2013)の岡田小学校新校舎完成、同 27 年(2015)の国道 438 号岡田バイパスの開通などもあり、岡田地区は、また、新たな一歩を歩み始めています。

まえがき

このたび、岡田コミュニティの歴史文化伝承事業の一つとして岡田学講座の開講に取り組むことになり、そのテキストとして「岡田の歴史」を作成することになりました。

今回のテキストの作成にあたっては、綾歌町史、綾歌町閉町記念誌、岡田小学校百年史、岡田村史、角川日本地名大辞典、広報まるがめなど岡田に関する史実について記載のある文献等をできるだけ幅広く調査し、関係する記事を抽出するとともに、年代を追って整理しました。そして、その要約内容を岡田の歴史(年表)として記載しました。また、事象の発生した年を特定できない場合であってもおおよその時期がわかる場合には、「この頃」といった表現を用い、できるだけ年表に掲載することといたしました。


このため、歴史資料としては新しい事実こそありませんが、様々な文献に掲載されていた古代から現在までの岡田の歩みが一つに集約され、ストーリーとして整理できたと考えています。

今後、このテキストが多くの人に読まれるなかで、岡田の歴史が理解され、郷土岡田に愛着と誇りを持っていただくとともに、ご意見や資料提供等をいただきより充実が図られればと願っています。

以 上

岡田の歴史


時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事
<p>紀元前 300年</p> <p>弥生時代</p> <p>紀元後 250年</p>	<p>この頃、祖先が定住を始める</p> <p>室塚遺跡は、この頃から中世にかけての遺跡</p>  <p>室塚遺跡遠景 出典：一般国道 32 号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 4 冊室塚遺跡(2008.2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当町域では縄文時代以前の遺跡や遺物は、まだ発見されていない。<㊦P937> この綾歌町に祖先が住みついたのは 2000 年以前であろうか、(中略)岡田成願寺付近から弥生式土器の破片が見つまっている。<㊦P1> 室塚遺跡は丸亀市綾歌町室塚に所在する遺跡である。香川県埋蔵物調査センターが平成 12 年度に発掘調査を行った。その結果、丘陵上では弥生時代後期の木棺墓・土壙墓群で構成される墓域と古墳時代終末期の方墳 1 基を、谷部では弥生時代中期から後期および中世の遺物を含んだ川跡を検出した。<㊦H20-4 > 弥生時代の末ごろから豪族たちを葬ったところに土を盛り上げて、墓とする風習が現れてきた。やがて 3~4 世紀ごろから高大な封土を築造して中に石室を造り、石棺などを納めた墓が造られるようになった。これを塚または墳とよんでいる。岡田地区の万塚、打越・国吉古墳(中略)などから石棺・須恵器・副葬品などが発掘されており、これはその昔町内に居住していた豪族たちの墓と推察され、相当多くの勢力者がいたようである。<㊦P2> 組み合わせ石棺の出土と考えあわせて、この車塚古墳が古墳時代でも古い時代のものと考えられる。<㊦P46> 岡田西北山に古墳時代後期の万塚古墳群がある。<㊦P245>
<p>250年</p> <p>古墳時代</p>	<p>この頃、万塚の車塚(前方後円墳)築造</p>  <p>岡田万塚出土遺物 提供：東京国立博物館</p> <p>俊正遺跡は、この頃から中世にかけての遺跡</p>  <p>俊正遺跡出土遺物の例 出典：一般国道 32 号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 3 冊</p>	<ul style="list-style-type: none"> 俊正遺跡は岡田上に所在する遺跡である。香川県埋蔵文化財センターが平成 18 年度に発掘調査を行った。その結果、古墳時代の竪穴住居跡と堀立柱建物跡からなる集落跡、中世から近世の堀立柱建物跡や灌漑用水路と考えられる溝跡などの遺構、土器類を主とした遺物を検出した。<㊦H20-3>

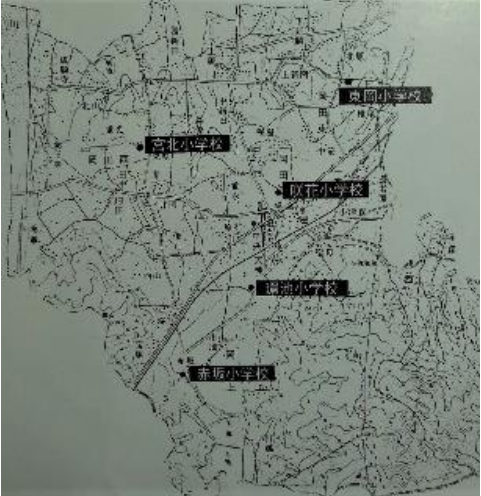
時代区分		岡田の歴史	参照文献の記事
592 飛鳥時代	7世紀初頭	<ul style="list-style-type: none"> この頃、西山下池古墳築造  <p>西山下池古墳 遺物出土状況 出典:香川県埋蔵文化財調査年報(2001.3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成11年(1999)香川県教育委員会文化行政課によって、西山下池古墳の発掘調査が行われる。調査は、西山下池改修工事に際して、西山下池奥の西山上池堤防直下にあたる地点で須恵器が一括して出土したことから急ぎょ実施。西山下池古墳は7世紀初頭に築造され同中葉までの追葬期間が想定できる。<㊦H11 P27>
710	701(大宝元)	<ul style="list-style-type: none"> 大宝律令制定 	
710 奈良時代		<ul style="list-style-type: none"> 讃岐国は11郡に分けられ鶺足郡がおかれる(岡田は鶺足郡井上郷の一部) 	<ul style="list-style-type: none"> 奈良時代、郡郷制度として讃岐は11郡と90郷に分けられ、1郷は約50戸を単位としていた。綾歌町が属していた昔の郷は井上郷(岡田・法勲寺)、栗熊郷(栗熊・富熊)であった。<㊦P2> 律令制下の当町域は讃岐国鶺足郡に属し、鶺足郡八郷のうち栗隈郷(栗熊・富熊)と井上郷(いのえごう)の一部(岡田)が当町域に比定される。<㊦P937> <p style="text-align: center;">* 比定:比較、推定すること</p>
794 平安時代	886(仁和2)	<ul style="list-style-type: none"> 菅原道真讃岐の守となる 	<ul style="list-style-type: none"> 仁和2年(886)に菅原道真が讃岐の国司となり、善政をしかれた。<㊦P2>
1185			

時代区分	岡 田 の 歴 史		参 照 文 献 の 記 事
1185 鎌倉時代			<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代には、讃岐藤原氏一族の羽床・大野・新居・香西などの諸氏が現在の綾歌郡・坂出市・高松市の南部を中心に発展した。<㊦P3>
1336 室町時代	1362(貞治元) 1368(応安元)	<ul style="list-style-type: none"> 細川頼之が讃岐の守護となる 長尾大隅守が西長尾城に入る 岡田は、栗隈、長尾、炭所とともに長尾大隅守の所領となる 	<ul style="list-style-type: none"> 貞治元年(1362)細川頼之讃岐の守護となる。<㊦P949> この時代に讃岐は細川氏が支配した。なかでも細川頼之は3代將軍足利義満の管領として幕政に当たったが、後に宇多津に住んだといわれている。<㊦P3> 細川氏の四国経営は、和氏のあと弟頼春が継ぎ、正平7年(1352)頼春没後は嫡子頼之がこれを継いだ。(中略)正平17年(1362)白峰合戦以後讃岐は全く頼之の治めるところとなった。(中略)そして、永正4年(1507)勢力を失うまでの150年間、讃岐は細川管領家の領国であった。<㊦P88、90> 白峰合戦で軍功を挙げた海崎城主海崎伊豆守元高は、栗隈、岡田、長尾、炭所の4村を新領地として受け取り、応安元年(1368)に西長尾城に入った。元高は入城に際し、長尾大隅守元高を名乗る。<㊦P134> * 海崎城(みさきじょう)は、いまの三豊市詫間町箱にあった城 「全讃史」によると、長尾大隅守元高は長尾を居城として、その男子を炭所・岡田・栗隈に分置し、その娘を近隣の豪族に嫁がせて勢力を伸ばしたという。<㊦P173>

時代区分		岡田の歴史	参照文献の記事
室町時代	1504(永正元)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慈光寺(真宗興正派)創建 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慈光寺の開基 永正元年(1504)4月16日<㊦P762>
	1541(天文10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西覚寺(真宗興正派)創建 ・ 戦国期の岡田は鵜足郡に属し、岡田里と呼ばれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西覚寺の開基 天文10年(1541)5月<㊦P764> ・ 岡田里は戦国期に見える地名。鵜足郡のうち。<㊦P184>
1573			
安土桃山時代	1578(天正6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長宗我部元親が土佐から讃岐へ攻め込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土佐の長宗我部元親が讃岐に侵攻したのは天正6年(1578)の夏である。当時、鵜足郡南部を支配していたのは西長尾城による長尾大隅守で、大隅守は翌7年、元親と一戦の後、香川信景の勧めで元親に降伏した。元親は同8年、讃岐攻略の拠点として西長尾城を修築し、国吉甚佐衛門を陣代として置いた。元親が修築した西長尾城は、「全讃史」などによれば国吉城とも呼ばれ、現在の城山の頂上及び稜線を利用してつくられたもので、空掘りや土塁、何段もの削平地が残されている。<㊦P938> ・ この時代、土佐の長宗我部元親が大いに勢力を伸ばし、阿波を従え讃岐に侵入した。元親は西長尾に兵を集めた。西長尾の城主長尾大隅守は羽床氏などとともに元親に降った。讃岐は長宗我部氏にほとんど攻略された。その後長宗我部氏は豊臣秀吉に降伏し、讃岐は秀吉の部下仙石秀久に与えられたが、幾ばくもなく尾藤智宣に継がれ、さらに生駒氏となった。讃岐の人に親しまれた“生駒さん”時代が4代54年間続いた。<㊦P4> ・ 天正13年(1585)、豊臣秀吉の四国征伐に伴い長宗我部軍は土佐へ退却し、西長尾城は廃城となった。<㊦P134> ・ 近世の当町域は、天正15年(1587)生駒氏領を経て、寛永19年(1642)から高松藩領となった。<㊦P938>
	1579(天正7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長尾大隅守が長宗我部元親に降伏 	
	1583(天正11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長宗我部元親が讃岐を平定 	
	1585(天正13)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西長尾城廃城となる 	
	1587(天正15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生駒親正が讃岐17万石に封じられる 	
1603			

時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事
江戸時代	1600年代中頃 <ul style="list-style-type: none"> 岡田郷(岡田ノ郷)が岡田上、岡田下、岡田東、岡田西の4か村に分村 	<ul style="list-style-type: none"> 「貞享元年(1684)高辻帳」には、岡田郷・栗熊郷の名はなく、岡田上・岡田下・岡田東・岡田西・栗熊・富熊の6か村となっている。<㊦P938>
	1672(寛文12) <ul style="list-style-type: none"> 矢延平六が小津守池を築く 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸期、岡田ノ郷が岡田上・岡田下・岡田東・岡田西の4か村に分村。<㊦P185> 江戸時代は封建社会であり、産業はおもに農業であった。そこで幕府や各藩は生産を高めるために、新田の開発やため池の築造を盛んにした。寛永年間(1624～1644)に生駒藩の家臣西嶋八兵衛の指揮によって多くのため池が作られ、続いて矢延平六は、高松藩主松平頼重に召され代官手代として登用され、土木事業に貢献した。平六は仁池、小津守池など多くの池を築造し、晩年富熊に住み、滝鼻出水を作り農業の発展尽くした。<㊦P4>
	1682(天和2) <ul style="list-style-type: none"> 矢延平六が滝鼻出水を作る <div data-bbox="510 866 871 1141" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="891 949 1120 1061" data-label="Caption"> <p>滝ノ鼻出水余水吐 (左奥の岸壁に刻字がある)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 土器川右岸に位置する滝鼻に「天和二壬戌曆五月上旬此井手成就矢延可次」と刻んだ岸壁がある。この井手は通称「滝鼻出水」と呼ばれ、水源地から200間(約380m)の掛井手で結ばれて滝鼻に達し、滝鼻・畑田・向王子に分水されている。矢延可次は叶次・伝六ともいい、寛永19年(1642)松平頼重にしたがって讃岐に移り住み、終生土木事業に従事し、大小100余の池を築造した。小津守池も伝六の事業だといわれている。晩年は町内の富熊に住み、没後、飛渡神社に祀られた。<㊦P938> 鵜足郡には2人の大庄屋があったが、当町では寛永年間(1624～44)に岡田久次郎、天明年間(1781～89)から幕末にかけて木村又佐衛門およびその子孫が大庄屋を勤めている。<㊦P938>

時代区分		岡田の歴史	参照文献の記事
江戸時代	1829(文政12)	<ul style="list-style-type: none"> 木村甚三郎が打越下池を築造する  <p>赤坂の打越下池碑</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文政12年(1829)には、大庄屋木村甚三郎によって打越下池が築造されるなど水を確保する努力はその後長く続けられた。<㊦P938> 高松城下から西へは、金毘羅街道・伊予街道・丸亀街道があり、当町(綾歌町)には金毘羅街道が東から西へ通っていた。栗熊西に一里塚があったといわれているが、現在それを示すものは残っていない。しかし、街道にそって道標・地藏・常夜燈など12の石造り建造物が残り、茶堂も御茶園と天満の2カ所にあったといわれている。<㊦P938>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 岡田4か村の合計人口3,158人、出生数80人 	<ul style="list-style-type: none"> 文政12年(1829)の岡田4か村の人口は、3,158人(男1,664、女1,494)出生数は80人(男39、女41) <㊦P135>
	1854(安政元)	<ul style="list-style-type: none"> 讃岐に大地震があり人家被害3千余戸 	<ul style="list-style-type: none"> 岡田西村では、幕末には甘蔗・綿など比較的旱害に強いものが盛んに栽培されたといわれる。 <㊦P186>
1868			
明治時代	1868	<ul style="list-style-type: none"> 幕末に、甘蔗・綿などが盛んに栽培される 幕末から明治初年にかけて、岡田上村、東村、西村で寺小屋教育が行われる 	<ul style="list-style-type: none"> 岡田の各村では、江戸時代末期には砂糖生産が行われ、領内に出荷している。<㊦P245> 岡田上村では、幕末、赤坂で桃洞先生と呼ばれていた豊嶋虎治が60余名の子弟を教育した。<㊦P185> 岡田東村では、幕末に土岐勝三郎が寺小屋を開き子弟を教育した。<㊦P186> 本町においての寺小屋は幕末から明治初年ごろのものが多くある。岡田地区では、西村に河野保次郎が師匠として子弟を教えていたが、これが宮北学校の前身である。また、千葉鳳齡は今の北山説教所で教えていた。東村では土岐勝三郎、上村では神官の土屋浪江の両者があり、赤坂に桃洞先生(本名豊嶋虎治)が六十余名の子弟に教えを授けていた。<㊦P491>

時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事
明治時代	1869(明治2)	<ul style="list-style-type: none"> 高松・丸亀・多度津藩が藩籍を奉還
	1871(明治4)	<ul style="list-style-type: none"> 廃藩置県により高松県・丸亀県になるも11月には両県が合併し香川県と改める
	1873(明治6)	<ul style="list-style-type: none"> 香川県が名東県になる
	1874(明治7)	<ul style="list-style-type: none"> 赤坂、東岡、咲屋、宮北に小学校を設置
	1875(明治8)	<ul style="list-style-type: none"> 名東県から香川県が独立
	1876(明治9)	<ul style="list-style-type: none"> 香川県が愛媛県に合併
	" "	<ul style="list-style-type: none"> 岡田東郵便取扱所(五等郵便局)設置
	1878(明治11)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田東に巡查交番所設置
1879(明治12)	<ul style="list-style-type: none"> 赤坂、咲屋小学校を統合し、環池小学校を設置 	
" "	<ul style="list-style-type: none"> 環池、宮北、東岡小学校を統合し、岡田尋常小学校を創設 	
<ul style="list-style-type: none"> 明治2年(1869)6月に讃岐三藩は藩籍を奉還して藩政は終わりをづけ、旧藩主は藩知事となり、明治4年(1871)7月廃藩置県により、それぞれ高松県・丸亀県となった。同年11月15日両県が合併して香川県になった。明治6年(1873)2月20日阿波・淡路と合併して名東県となり、明治8年(1875)9月5日には分離して再び香川県となった。明治9年(1876)8月21日愛媛県と合併して、愛媛県と称したが、明治21年(1888)12月2日分離して三たび香川県となった。<㊦P5> 明治5年(1872)に交付された学制は画期的な大改革であった。全国を8大学区に分け、中学区は大学区内に32中学区を設け、1中学区に210の小学区を設け小学校を設置した。岡田村では明治6年(1873)に赤坂・東岡・咲屋・宮北に、各小学校を設置した。<㊦P5~6> 明治9年(1876)8月、岡田郵便取扱所が設置され、五等郵便局として集配業務を行った。<㊦P628> 明治11年(1878)12月、岡田東に巡查交番所が置かれる。<㊦P711> 明治12年(1879)、赤坂・咲屋小学校を統合し、環池小学校を設置 <㊦P505> 明治12年(1879)4月、環池・宮北・東岡の3小学校を統合し、岡田尋常小学校を創設 <㊦P505> <p data-bbox="1272 1283 1536 1350">明治初期の小学校位置図 出典：岡田小学校百年史</p> 		

時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事
明治時代	1887(明治20) <ul style="list-style-type: none"> 岡田尋常小学校校舎を現在地に建築 	<ul style="list-style-type: none"> 明治20年(1887)5月、校舎を西新田(現在の自治会名は中新田)に建築する。<㊦P505>
	1888(明治21) <ul style="list-style-type: none"> 香川県が愛媛県から独立 	
	1890(明治23) <ul style="list-style-type: none"> 岡田上・下・東・西の4か村が合併し、岡田村が誕生(香川県鶺鴒足郡岡田村となる) 	<ul style="list-style-type: none"> 明治23年(1890)市町村制施行により、栗熊東・栗熊西両村が合併して栗熊村、岡田上・岡田下・岡田東・岡田西の4か村が合併して岡田村となり、富熊は1村のみで存続した。同32年(1899)村々は綾歌郡に所属となった。<㊦P938>
	1891(明治24) <ul style="list-style-type: none"> 岡田村の人口4,740人(男2,385、女2,355)、戸数は855 	<ul style="list-style-type: none"> 明治24年の岡田村の戸数885・人口4,740(男2,385、女2,355)<㊦P184>
	1894(明治27) <ul style="list-style-type: none"> 土岐六蔵が小津守池堤のかさ上げ工事を行う <div data-bbox="618 919 909 1302" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="539 1321 1099 1350">一本木駒止地藏脇にある土岐六蔵頌徳碑 (H29 撮影)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明治27年(1894)土岐六蔵によって小津守池の堤のかさ上げ工事が行われた。<㊦P186>

時代区分	岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事	
明 治 時 代	1895(明治 28)	<ul style="list-style-type: none"> 琴平銀行岡田出張所ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 明治 28 年(1895)琴平銀行岡田出張所ができ、同 31 年(1898)には伝染病隔離病院が完成した。 <㊦P185>
	1896(明治 29)	<ul style="list-style-type: none"> 滝宮警察署岡田分署設置 	
	1898(明治 31)	<ul style="list-style-type: none"> 美合、造田、長尾、岡田四か村組合立岡田高等小学校を開設 	<ul style="list-style-type: none"> 産業面では、西洋文明の導入により手工業から機械工業に移り一大飛躍をし、農業は栽培技術の改善により生産の増強を図り、明治 31 年(1898)ごろから農家の副業として麦稈真田、養蚕などを取り入れ農家の収入を増した。明治 32 年(1899)に農会法が發布され各村に農会が設置、明治 40 年(1907)に米穀検査規則が制定されるなど米麦の増産と品質改善に大きな成果をもたらした。 <㊦P6>
	"	<ul style="list-style-type: none"> 伝染病隔離病院完成 	
	1899(明治 32)	<ul style="list-style-type: none"> 郡制が施行され、岡田村は綾歌郡に所属となる(香川県綾歌郡岡田村となる) 	<ul style="list-style-type: none"> 明治 35 年(1902)の県令によって苗代田の播種方法が変更され、また、その頃米作麦作などに対する技術指導が重点的に行われて、農産物の改良増殖が進んだ。稲作は明治末期に「香川神力」「雄町」を奨励品種として増産を図り、当町は讃岐の「すし米」産地として名をなした。 <㊦P938>
	1905(明治 38)	<ul style="list-style-type: none"> 組合立岡田高等小学校を廃し岡田尋常高等小学校設置 	
	1906(明治 39)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田尋常高等小学校に岡田農業補習学校が附設される 	<ul style="list-style-type: none"> 明治 39 年(1906)4 月、岡田尋常高等小学校に岡田農業補習学校が附設される。 <㊦P506>
1907(明治 40)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田信用組合設立 金毘羅街道に乗合馬車が開通 	<ul style="list-style-type: none"> 明治 40 年(1907)頃になって金毘羅街道に乗り合い馬車が走り、馬指や天神に駅が設けられた。 <㊦P938> 	

時代区分	岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事
明 治 時 代	<p>1908(明治 41)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡田善通寺線が4 m幅の郡道として開通 <p>1912(明治 45)</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治から大正期にかけて麦稈真田を盛んに生産  <p>麦稈真田用具 出典：香川県農業資料館 HP</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明治 41 年(1908)現在の4 m幅の郡道ができた。<㊦> 農家の副業として、明治から大正期にかけて、麦稈真田の生産が盛んであった。<㊦P185>
	1912	<p>1912</p> <p>大 正 時 代</p> <p>1914(大正 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡田村・栗熊村公設消防組設置 <p>1918(大正 7)</p> <p>〃</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡田愛国婦人会(岡田婦人会の前身)を結成 一本木の地名の由来となった駒止地藏前の一本櫟(くぬぎ)が9月の台風で倒壊

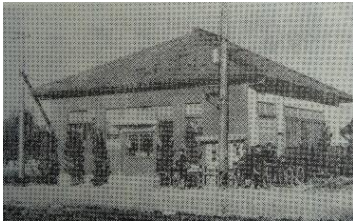

時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事	
大 正 時 代 1926	1919(大正 8)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田電燈株式会社が岡田東宿母で設立され、岡田のほか仲多度郡四条村、栗熊、法勲寺、羽床などに配電 	<ul style="list-style-type: none"> 大正 8 年(1919)に岡田電燈株式会社が岡田東宿母で生まれ、電気事業を営んでいた。同年、仲多度郡四条村を中心として岡田、栗熊、法勲寺、羽床、羽床上にわたり配電を開始。<㊦P467>
	1920(大正 9)	<ul style="list-style-type: none"> 人口 4,603 人(男 2,295、女 2,308) 	<ul style="list-style-type: none"> 大正 9 年(1920)の世帯数 963、人口 4,603(男 2,295、女 2,308)で、そのほとんどは農業に従事している。<㊦P184>
	1921(大正 10)	<ul style="list-style-type: none"> 初めて村全体の老人を対象に敬老会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 岡田村では、大正 10 年 3 月 21 日、青年団長が初めて村全体の老人を対象に青年団主催の敬老会を開催して非常に喜ばれた。<㊦696>
	1923(大正 12)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田巡查部長派出所が廃止され、岡田東駐在所、岡田西駐在所を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 大正 12 年 2 月 28 日、岡田巡查部長派出所が廃止され、岡田東駐在所並びに岡田西駐在所が置かれた。<㊦P712>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 木村栄吉が第 23 代香川県議会議長となる(通算 10 年に亘り議長を務める) 	<ul style="list-style-type: none"> 歴代の県議会議長 <㊦P157>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 郡道岡田善通寺線が県道となる 大正期から昭和期にかけて「かます」を盛んに生産 	<ul style="list-style-type: none"> 大正 12 年(1923)岡田善通寺線が県道となった。<㊦> 大正期から昭和期にかけて呎(かます)の生産が盛んであった。<㊦P186>





岡田電燈株式会社前にて(大正 11 年)



呎(かます)
出典：香川県農業資料館
HP

時代区分		岡田の歴史	参照文献の記事
昭和時代	1926		
	1927(昭和2)	<ul style="list-style-type: none"> 琴電の高松～琴平間が開通し、岡田駅が設置される 	<ul style="list-style-type: none"> 大正15年に栗林から滝宮まで開通した琴電は昭和2年(1927)に高松～琴平間が開通し、栗熊・岡田の両駅が町内に設置された。昭和19年(1944)には琴参バスが町内と丸亀市を結び、同25年(1950)からは琴電バスも現在の国道32号を運行するようになった。<㊦P938>
	1928(昭和3)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田郵便局電話交換開始 	
	1930(昭和5)	<ul style="list-style-type: none"> 人口4,531人(男2,256、女2,275) 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和5年の人口4,531(男2,256、女2,275) <㊦P184>
	1934(昭和9)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田地区に煙草耕作許可される 	<ul style="list-style-type: none"> 麦作は大正に入って広播栽培法に改良されて栽培が進み、昭和に入っては小麦も盛んにつくられた。昭和30年代末頃より麦作に対する農家の意欲が減退し大幅な作付減となったが、近年、政府の奨励金が交付されるようになって作付面積が増加している。<㊦P938> 煙草の栽培は昭和5年(1927)富熊地区の農家81戸が許可され、昭和9年(1934)には岡田・栗熊でも許可されて栽培が町内全域に広がった。戦後、栽培面積の割当が増加し、昭和45年(1970)には約120haで栽培されるまでになったが近年は減少傾向である。<P938～939>
	1935(昭和10)	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数917、人口4,579人 	
	1936(昭和11)	<ul style="list-style-type: none"> 亀越池増築に着手 	
	1942(昭和17)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田村国民健康保険組合設立 	
1945(昭和20)	<ul style="list-style-type: none"> 高松空襲で香川県庁消失のため岡田国民学校に県庁舎を疎開 	  <p>岡田小運動会でのバザー (S10) 岡田国民学校時代 (S16～21) のわんぱく坊主</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和20年(1945)高松市の空襲により県庁が焼失したため、岡田国民学校が仮庁舎となり、仮事務所を設置した。<㊦P184> 	

	時代区分	岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事
昭 和 時 代	1946(昭和 21)	<ul style="list-style-type: none"> 県内の農地改革が始まる 	
	1947(昭和 22)	<ul style="list-style-type: none"> 学制改革により岡田国民学校は岡田小学校と改称、別に岡田中学校を新設 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年 4 月 1 日、学制改革により岡田国民学校は岡田小学校と改称、別に岡田中学校が新設される。＜㊦P507＞
	1948(昭和 23)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田村農業協同組合・農業共済組合設立 	
	1949(昭和 24)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田農業改良普及所設置 	<ul style="list-style-type: none"> 綾歌飯山両町を区域として昭和 24 年(1949)8 月岡田に農業改良普及所が設置され農業各般の改善指導を行う。＜㊦P318 >
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 岡田幼稚園設置 	<ul style="list-style-type: none"> 岡田村立幼稚園として認可される。＜㊦P503＞
	1950(昭和 25)	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数 1,057、人口 5,387 人 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 25 年の世帯数 1,057、人口 5,387 <㊦P184>
	1951(昭和 26)	<ul style="list-style-type: none"> 香川県立飯山高等学校岡田分校を岡田中学校に併置 	
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 百十四銀行岡田支店開設 	<ul style="list-style-type: none"> 百十四銀行は地方開発のため昭和 20 年 11 月琴平支店の所属で岡田下の津村良男宅へ岡田特別出張所が開設され、同 23 年 12 月普通出張所に変更された。開設以来着々として業績が上がったので昭和 26 年 1 月昇格して岡田支店となった。＜㊦P200>
	1954(昭和 29)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田保育所設置 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 29 年(1954)5 月、岡田保育所が認可される。＜㊦P683>
	1956(昭和 31)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田小学校でみそ汁給食開始 	
1959(昭和 34)	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋 3 階建岡田小学校舎落成式挙 		
		 <p style="text-align: center;">新築なった鉄筋 3 階 建て岡田小学校舎 (S34 撮影)</p>	 <p style="text-align: center;">岡田小中運動会風景 (S30 年頃)</p>
〃	<ul style="list-style-type: none"> 久万玉村と合併し、綾歌町となる 		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 31 年(1956)1 月、岡田小学校で味噌汁給食開始 <㊦>
〃	<ul style="list-style-type: none"> 綾歌町消防団結成 		<ul style="list-style-type: none"> 昭和 34 年(1959)2 月、岡田小学校校舎(鉄筋 3 階建)落成記念祝賀会を開催<㊦> 昭和 34 年(1959)久万玉村と岡田村が合併して綾歌町が成立した。<㊦P938>

	時代区分	岡田の歴史	参照文献の記事
昭和時代	1960(昭和 35)	・ 岡田小学校にプール完成	
	〃	・ 有線放送業務開始	
	〃	・ 綾歌町商工会設立	
	1963(昭和 38)	・ 岡田・久万玉中学校を廃校し綾歌中学校とする	・ 昭和 38 年(1963)2 月、岡田長生会(会長 土屋亀三郎)が発足
	〃	・ 岡田長生会が発足	<㊦P558>
	1964(昭和 39)	・ 飯綾葬祭組合設立	・ 小学校在学中の子どもを会員とし、育成者・指導者が参加して子ども会が昭和 39 年(1964)に部落単位で発足した。<㊦P558 >
	〃	・ 岡田校区子ども会発足	
	1965(昭和 40)	・ 綾歌町給食センター開始	
	1969(昭和 44)	・ 岡田西駐在所廃止	・ 昭和 44 年 11 月 1 日、岡田西駐在所は廃止された。<㊦712>
	1970(昭和 45)	・ 金毘羅街道が国道 32 号に昇格	・ 金毘羅街道は明治期以後改修が進み、幅員も広げられて、昭和 45 年 4 月に国道に昇格して国道 32 号となった。<㊦938>
1972(昭和 47)	・ 岡田おどりが綾歌町の民俗文化財(無形)に指定される	・ 昭和 47 年(1972) 岡田おどりが綾歌町の民俗文化財(無形)に指定される。<㊦P119>	
			
		岡田おどり	
	1973(昭和 48)	・ 飯綾消防組合設立	・ 昭和 48 年(1973) 岡田おどり保存会発足<㊦P5>
	〃	・ 岡田おどり保存会発足	

時代区分		岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事	
昭 和 時 代	1974(昭和 49) 〃 1977(昭和 52)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田地区簡易水道給水開始 香川用水路が完成 岡田小学校百年祭举行  <p>百年祭記念式典</p>	<ul style="list-style-type: none"> 岡田地区簡易水道 昭和 49 年 6 月より給水開始。<㊦696> 昭和 53 年(1978) 町役場新庁舎完成<㊦P6> 昭和 57 年(1982) 県道坂出貞光線が国道 438 号に昇格<㊦P7> 	
	1978(昭和 53)	<ul style="list-style-type: none"> 綾歌町役場新庁舎完成 	 <p>昭和 59 年当時の琴電岡田駅</p>	
	1982(昭和 57)	<ul style="list-style-type: none"> 県道坂出貞光線が国道 438 号に昇格 		
	1984(昭和 59)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田農村研修センター完成 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 59 年(1984) 岡田農村研修センター完成<㊦P7> 	
	1988(昭和 63)	<ul style="list-style-type: none"> 綾歌中学校吹奏楽部が初の全国大会出場 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 63 年(1988) 綾歌中学校吹奏楽部初の全国大会出場<㊦P7> 	
1989	1989	1991(平成 3)	<ul style="list-style-type: none"> レオマワールドオープン 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 3 年(1991) レオマワールドオープン<㊦P8>
平 成 時 代	1996(平成 8)	<ul style="list-style-type: none"> 総合会館アイレックスオープン 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 8 年(1996) 総合会館アイレックスオープン<㊦P9> 	
	1997(平成 9)	<ul style="list-style-type: none"> 綾歌町民憲章制定 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 9 年(1997) 綾歌町民憲章制定<㊦P9> 	

時代区分	岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事	
平成時代	1999(平成 11)	<ul style="list-style-type: none"> 新葬斎場・桜谷聖苑完成 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 11 年(1999) 新葬斎場・桜谷聖苑完成<㊦P10>
	2001(平成 13)	<ul style="list-style-type: none"> 町内循環バス「お出かけバス」運行開始  <p data-bbox="898 536 1144 600">お出かけバス 出典:綾歌町閉町記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成 13 年(2001) 町内循環バス「お出かけバス」運行開始<㊦P10>
	2003(平成 15)	<ul style="list-style-type: none"> 丸亀市・綾歌町・飯山町合併協議会設置 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年(2003)丸亀市・綾歌町・飯山町合併協議会設置<㊦P10>
	2005(平成 17)	<ul style="list-style-type: none"> 新丸亀市が誕生し、綾歌町 46 年の幕を閉じる(岡田は丸亀市綾歌町岡田と表記) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年(2005) 新「丸亀市」誕生 綾歌町閉町<㊦P10>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> あやうた幼稚園舎完成 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 17 年(2005) あやうた幼稚園舎完成<㊦P10>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 岡田コミュニティ推進協議会設立。同時に岡田校区連合自治会発足(87 自治会) 	
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 岡田コミュニティだより第 1 号を発行 	
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回あやうたふるさとまつり開催 	
	2006(平成 18)	<ul style="list-style-type: none"> 警察署の管轄が綾南警察署から丸亀警察署に変更 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 18 年(2006)4 月、綾歌地区・飯山地区が丸亀警察署管内に<㊦H18.3>
	〃	<ul style="list-style-type: none"> 新岡田コミュニティセンターオープン 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 18 年(2006)11 月、国道拡幅工事に伴って進められていた、新岡田コミュニティセンターの本体工事が完了した。<㊦H19.1>

時代区分	岡 田 の 歴 史	参 照 文 献 の 記 事
平成時代	2008(平成 20) 〃 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回岡田コミュニティまつり開催 ・ 国道 32 号綾歌バイパス全線開通 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年(2008)12 月、国道 32 号綾南・綾歌・満濃バイパスの綾歌工区の供用が始まり、全線が開通した。<㊦H21.1>
	2011(平成 23) <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡田小学校旧校舎お別れ会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 23 年 12 月、歴代 PTA 会長や有志が学校と協力して旧校舎お別れ会を開催した。
	 岡田小学校旧校舎 全景 (H23.10 撮影)	 丸亀お城まつり時代絵巻 に岡田コミュニティとして 初参加(H25.5)
	2012(平成 24) <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡田小学校新校舎の起工式が行われる 	
	2013(平成 25) <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸亀お城まつり時代絵巻に初参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年(2013)5 月 岡田コミュニティセンターで「岡田久次郎まつり」が初めて開催された。<㊦H25.6>
	〃 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡田久次郎まつり実行委員会が「岡田久次郎まつり」を初めて開催 	
	〃 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡田小学校新校舎竣工・内覧会を実施 	
	2015(平成 27) <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 438 号岡田バイパス開通 ・ 丸亀市コミュニティ協議会連合会が設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年(2015)5 月、丸亀市コミュニティ協議会連合会が設立された。<㊦H27.7>
2016(平成 28) <ul style="list-style-type: none"> ・ あやうた幼稚園が幼保認定型こども園へ移行し、あやうたこども園と改称 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度から、あやうた幼稚園は認定こども園へ移行し、「あやうたこども園」になる。<㊦H27.12> 	
〃 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡田コミュニティセンターで第 1 回おかだkira²夏まつり開催 		
2017(平成 29) <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 月 1 日現在の世帯数 1,542、人口 4,344 人 		

参照・掲載した文献

資 料 名	表中の略称
○ 綾歌町史（綾歌町 S51 発行）	<町>
○ 岡田村史（岡田尋常高等小学校発行）	<村>
○ 岡田小学校百年史 8 岡田小学校 S52 発行）	<小>
○ 綾歌町閉町記念誌 風の旋律に満たされた町綾歌町（綾歌町 H17 発行）	<記>
○ 角川日本地名大辞典 37 香川県（角川書店）	<地>
○ 香川県の地名 日本歴史地名大系 38 巻（平凡社 1982 発行）	<歴>
○ 香川県埋蔵文化財調査年報 平成 11 年度（香川県教育委員会 2001 発行）	<文H11>
○ 一般国道 32 号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 3 冊俊正遺跡(香川県教育委員会 国土交通省四国地方整備局 2008.2)	<文H20-3>
○ 一般国道 32 号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 4 冊室塚遺跡(香川県教育委員会 国土交通省四国地方整備局 2008.2)	<文H20-4>
○ 讃岐国鵜足郡岡田上村木村家文書	<木>
○ 丸亀の文化財(第 8 編)（丸亀市教育委員会 平成 27 年発行）	<市>
○ 綾歌町の地名（綾歌町教育委員会 平成 16 年発行）	<あ>
○ 広報まるがめ	<丸>
○ 満濃町誌（満濃町 H17 年発行）	<満>

<参考> 天保国絵図 讃岐国



天保国絵図(讃岐国) 天保 9 年(1838)



【凡例】 ●は一里塚 —は道路

同左国絵図の岡田付近の拡大図(上が南となっており、打越池や岡田の各村の地名が見える)

【解説】 国絵図について

- ・ 香川県郷土教育史研究所説(一) (高松大学発達科学部准教授 溝淵利博著) には、讃岐国絵図として、慶長末年(1610~15)の讃岐国絵図<高松市歴史資料館蔵>、寛永 10 年(1633)幕府の要請により生駒高俊の命で作成した讃岐国絵図(寛永国絵図)<金刀比羅宮蔵>の名前の記載があるほか、正保元年(1644)、元禄 9 年(1696)、天保 6 年(1835)に幕府が諸国に国絵図の作成と提出を命じたとの記述がある。
- ・ 上記の天保国絵図(讃岐国)は、国立公文書館デジタルアーカイブの HP から転載したものである。